



夏は何処へ？ 雨が続いた夏

毎年何が起るかわからないのが気象現象。平年 29 年の 8 月は、神奈川県では 1 日午後から沿岸部の集中豪雨に始まり 15 日間連続降雨という天候に恵まれない一月となりました（ちなみに東京では 40 年前の記録に迫る 21 日間連続降雨を記録）。



海岸清掃もこの悪天候の影響を受けています。1 日の集中豪雨では、1 時間当たり 50mm 以上の雨により河川氾濫の危険水位に達した地域で避難勧告が発令されましたが、増水により河川の中・下流域の流木や竹・人工ごみが海まで流れ出しています。そのごみは、北北東の風の影響で沖合いに漂っていましたが、3

週間近く迷走していた台風 5 号が南風を伴って 8 日に日本列島を南から北に縦断したことで、今度は沿岸部に大量に漂着。このため横須賀市、三浦市、平塚市、大磯町、二宮町、小田原市、真鶴町、湯河原町の各海岸で緊急清掃を実施しました。

緊急清掃対象以外の地域では、9 日も高波と南風が強かったため、来遊客のピークを迎えるお盆休みの三連休前の清掃可能日は 10 日の一日のみ。この一日間で海水浴場を中心とした海浜地の復



旧をフル稼働で実施しなければならず、作業員の増員やごみ運搬車両の増車などを行い、なんとか快適な海水浴場へと復

旧することが出来ました。

8 月いっぱい実施した緊急清掃のごみの内容は、竹が多かったのが特徴で、海



に浮かんでいたものが風で押し戻され漂着したことが理由でした。この竹の処理は、長さや太さ、鮮度によって、不燃処理として出すもの、折って可燃処理として出すもの等の分別で中間処理工程に非常に手間がかかります。

可燃分は、さらに分別精度を高めるために 70L のビニール袋やみかんコンテナ (40cm×60cm) を使用して選別収集するなど、かなりの工夫や手間をかけながらの作業となりました。



ビーチクリーンアップかながわ 2017 を開催しました

5月7日から6月4日まで、春の県下一斉の海岸清掃イベント『ビーチクリーンアップかながわ 2017』を開催しました。

5月28日に実施された藤沢市片瀬東浜会場では、見渡す限りのごみを拾う人・人・人で壮観！あつという間に海岸からごみが無くなっていきました。

また、茅ヶ崎会場では、市制70周年記念事業として海上保安庁とタイアップで開催され、ビーチクリーンアップの他にも環境教室が実施されました。

総参加者数は12,077人で、約23トンのごみを回収することができました。参加された皆さん、ありがとうございました。

バーベキューごみが目立ちます

ゴールデンウィーク以降、一気にバーベキューごみが増えました。こうしたごみの中には生ごみが混入している場合が多く、悪臭だけでなく、カラス等によりごみが周囲に散乱し、さらに状況を悪化させています。

また、食材や容器包装だけでなく、器材もそのまま放置されているケースも多く見られ、当分の間、バーベキューごみの片付けからスタートする週明けが続きます。



奮闘！財団直営清掃作業班

平成29年も、業者委託清掃以外の絶大な戦力として、7月～10月までの4ヶ月間、4人組の財団直営清掃作業班を編成し、通常の清掃では処理が困難で急処を要する現場等の過酷な海岸の作業に連日出動しています。

この作業班は機械を使用しない人力のみでの清掃ですが、7月は

17,700kg、8月は25,800kgの海岸ごみを処理。1日一人当たりで約320kg（軽ダンプ車両1台分の積載量に相当）のごみを回収している計算になります。

作業員4人（人呼んでスーパー作業員）の並々ならぬ頑張りにも感謝です。



ミズナギドリの死骸が大量漂着



例年5月から6月にかけてオーストラリアのタスマニア周辺から北海道の根室沖へ飛来するミズナギドリの死骸が、今年も神奈川県沿岸に大量に漂着しました。

こうした死骸は、ミズナギドリが北上していく途中で、悪天候に遭遇し、命を落とした個体で、今年度は、5月29日から1週間で391羽を回収しました。

ボランティアツアー | CREATIVE SECONDARY SCHOOL(HONG KONG)

6月13日、香港から来日した中等学校生が藤沢市片瀬東浜でビーチクリーンアップしてくれました。

5日間の滞在予定のうち、2日目にビーチクリーンアップを組み込むほど拾う気満々な彼らは、土砂降りな雨をものともせず

に登場。まずは財団職員から海岸ごみの講義を受けた後、ほとんど傘もささずびしょ濡れになりながら、熱心にごみを拾ってくれました。清掃後、感想を尋ねると、海岸ごみの中にタバコのフィルターが非常に多いことにとっても驚いていました。



啓発ポスターを掲出していただきました



今年度は新たに2箇所、啓発ポスターの掲出にご協力いただいています。

中日本高速道路株式会社(NEXCO中日本)のご協力により、西湘バイパス下りの西湘パーキングエリアに掲出させていただきました。

また、大磯町では、町のご協力により、ポートハウスでるがさき等の町内施設に掲出させていただきました。

何だろう？ 花火大会の翌日に出現するごみ

今夏も各地で花火大会が開催されましたが、翌日の海岸には、放置されたごみが大量にあり、早朝から清掃にあたりました。

ごみの中身は、シートや飲食物の容器包装がほとんどですが、鎌倉の花火大会は、他と異なり、毎年、翌日の海岸には、これは何だろうと頭をひねってしまうごみが点々と散在しています。

それが下記写真左のダンボール製のお皿のようなもの。何に使用

されるのか、長年疑問に思いながら回収していましたが、先日、市の担当課に確認したところ、これはお皿でも水中花火で使用されるものでもなく、なんと、花火の筒のフタでした。(写真右)

フタは自然に還る素材でできており、これが花火が打ち上げられる際に周囲に飛ばされ、海岸に打ちあがるそうです。いつか、フタがいらない、飛ばされない発射筒ができるといいですね。



なぎさ通信



●ご協賛いただきました

- ・日本サニパック株式会社様
ごみ袋：200,000枚
 - ・日本たばこ産業株式会社様
ごみ袋：50,000枚
軍手：7,200双
 - ・公益財団法人小田急財団様
ごみ袋：10,000枚
- ありがとうございました。

●新規の特別法人団体会員様

- ・レモンガス株式会社様
- ・株式会社カネダ様